

MEIKEI

MEIKEI 名経大通信 Vol.43 平成25年1月21日発行 名古屋経済大学・短期大学部 〒464-8504 大山市内久保61-1 TEL 0568-67-0511(代) http://www.nagoya-ku.ac.jp/

企画広報室 TEL 0568-67-0624 FAX 0568-67-0724 ●本誌掲載の定評ある写真・イラストは20名前後の専任・非常勤のスタッフが担当しています。

成績優秀者優遇制度を拡充

佐々木雄太 新学長のもと、本学の将来を見ず入試制度についてさまざまな改革が行われています。平成25年度入試においては、従来の学力入試、センター試験利用入試の高得点者の優遇制度(プラチナ特典)を大幅に拡充しました。すなわち、学力入試、センター試験利用入試の高得点者(合計得点が8割以上)に対して、入学金および毎年の学納金(授業料、施設整備費、維持費、教育充実費)を免除するというものです。従来は、授業料のみ1年間の免除で、対象も大学のみに限られていましたので、大幅な拡充になります。

2年次以降の授業料免除については、前年度における一定基準の単位修得(原則として30単位以上)と、在籍する学部の進級要件を満たすことが条件になっていますが、普通に学習していれば無理なくクリアできる条件です。

また、指定校推薦制度の一環としての特別奨学生制度も、平成25年度入試より条件を緩和し内容も大幅に拡充しました。

今回の優遇制度の拡充は、本学の新体制の改革の一環であり、優秀な学生を確保し学内の活性化を図ることを目的とし、その成果が期待されています。

「学力入試」または「センター試験利用入試」の成績優秀者 入学金・4年間の学納金※免除!

対象者:大学・短期大学部 全学部・学科の学力入試またはセンター試験利用入試において試験の得点が8割以上の者

1. 入学金 200,000円を免除
2. 毎年の学納金(※授業料・施設整備費・維持費・教育充実費)を免除

学部	学科	免除額
経済学部	現代経済学科	1,000,000円
経営学部	経営学科	
法学部	ビジネス法学科	1,040,000円
人間生活科学部	教育保育学科	
短期大学部	管理栄養学科	1,030,000円
	保育科	
	キャリアデザイン学科	

☆2年次以降の学納金免除には条件があります。(左記文中参照)

短期大学部の年額授業料 10万円減額!

平成25年度入学生より、短期大学部の授業料(従来は年額700,000円)を年額600,000円に減額いたします。

平成25年度(2013)入試日程

選考方法については、ホームページまたは「2013年度入学試験要項」にてご確認ください。

●大学・短期大学部

入試区分	エントリー期間(消印有効)	第一次審査日	審査結果発表日	正式出願期間	第二次審査	合格発表日
AO	V期 平成25年1月30日(水)~2月25日(月)	3月2日(土)	3月4日(月)	平成25年3月4日(月)~3月6日(水)	出願書類の審査	3月14日(木)

入試区分	出願期間(消印有効)	試験日	合格発表日	試験会場	
学力I期*	A日程 平成25年1月7日(月)~1月18日(金)	1月26日(土)	2月1日(金)	犬山、名駅	
		1月27日(日)		犬山、名駅、津、浜松、福井、松本、那覇	
	B日程 平成25年1月7日(月)~1月25日(金)	2月4日(月)	2月8日(金)	犬山、名駅	
C日程 平成25年2月6日(水)~2月15日(金)	2月24日(日)	3月1日(金)	犬山、名駅、津、浜松、福井、松本		
学力II期*	平成25年2月12日(火)~3月4日(月)	3月11日(月)	3月14日(木)	犬山、名駅	
センター試験利用*	I期 平成25年1月7日(月)~1月30日(水)	個別試験はありません。	2月8日(金)		
			II期 平成25年2月4日(月)~2月19日(火)		3月1日(金)
			III期 平成25年2月18日(月)~3月5日(火)		3月14日(木)

※試験の高得点者は、入学金および毎年の学納金(授業料、施設整備費、維持費、教育充実費)を免除。

●大学院

研究科	専攻	試験会場	区分	出願期間(消印有効)	試験日	合格発表日
法学	企業法学	名駅	博士後期	平成25年1月4日(金)~1月15日(火)	2月9日(土)	2月13日(水)
	法学		修士 II期			
会計学	会計学	名駅	博士後期	平成25年1月4日(金)~1月15日(火)	2月10日(日)	2月13日(水)
			博士前期 II期			
人間生活科学	幼児保育学 栄養管理学	犬山	修士 II期	平成25年1月15日(火)~1月23日(水)	2月16日(土)	2月19日(火)
			III期	平成25年2月12日(火)~2月21日(木)	3月3日(日)	3月5日(火)

※各研究科・専攻の入試には、推薦、一般、社会人、外国人留学生の入試区分があります。



MEIKEI

あなたのご意見をお聞かせください
「名経大通信」Vol.43について、ご意見や感想などございましたら、企画広報室(右記連絡先)までお聞かせください。

新年明けましておめでとうございます



学校法人 市邨学園 理事長・学園長 すい おか ひろ あき 末岡 熙章

皆様におかれましては、お健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。平成25年のこの新しい年を、皆様とともに祝いいたしたいと思っております。

東日本大震災以来、昨年は日本にとりまして、政治、経済、社会、いろいろな面で多難な年でした。その中であって、市邨学園に對しまして大変なご支援、ご鞭撻をいただいて参りました。この場をお借りしまして、改めて皆様に心より感謝申し上げます。

私は毎年、1月1日に創立者 市邨芳樹先生の回忌を迎えるたびに、改めて感謝の念を覚えます。それは、市邨学園が長年の歴史をさらに積み重ねて今日の学園が存在する、そのことを実感する喜びであります。とりわけ昨年は日本にとって大変厳しい年でありました。政権交代以後、政府は3年間、国民の期待に応えられぬままデフレは加速し、日本は非常に厳しい経済状況のなかにありました。

教職員、学生の皆様にも、また保護者の方々におかれましては、さまざまなご苦勞があったことと拝察いたします。もちろん市邨学園も、私学としてそうした厳しい経済状況のなかで、教職員の人たちにもいろいろご苦勞をおかけするような状況でした。しかしな

がら、皆様のご協力のもと、そういう厳しい年を乗り越えつつ、この新しい年、1月1日を迎えることができました。市邨先生の祥月命日にあたり、そのことを私は大きな喜びとしております。

今年、お陰様をもちまして市邨学園は創立から106年を迎えます。平成29年には110年を迎えます。

この度の新政権の誕生に期待し、この節目の年を「新しい市邨学園への始動の年」「新しい市邨学園への脱皮の年」と位置づけたいと思っております。同時に、今年はこのからの日本にとって、大変大きな節目の年になると思われまゝ。私は、今後も市邨学園が有為な人材を育成し、社会に輩出する使命と力を持ちうると信じております。そのチャレンジのスタートを切ることができるということ、市邨学園が新しい時代に向けて始動の年として新年を迎えたこと、そのことも大きな喜びとしております。

一方、少子高齢化がますます進行していくなかで、市邨学園は時代を先導すべき私学として、自ら経営改革をしていかねばなりません。昨年、理事会において教学・財政・経営システムの改革を軸として、経営改革を進めていくことを宣言いたしました。これからは、多岐にわたる計画の中で優先順位を定め、具体的な推進の検討が必要となって参ります。いずれも大きな責任が伴う改革ですが、段階的に取り組みを重ねて、成果を出したいと考えております。

私立大学は今後、それぞれに組織改革や構造改革、経営改革が求められてくると思っております。加えて社会への貢献など、枚挙にいとまがないほどの課題が山積しております。市邨学園は皆様のご熱意に応えるため、最善の努力を傾注し、職責を果たしていく所存でございます。

本学が力強く躍進できますよう、皆様からご支援を賜りたく存じます。平成25年が皆様にとってご健康でご活躍されます年であることを心からお祈りいたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

変化の時代を生き抜く「学ぶ力」を育てる



名古屋経済大学・短期大学部 学長 さ さ き ゆ う た 佐々木 雄太

新しい年を迎え、謹んでご挨拶申し上げます。また、本学に対する平素のご理解とご支援に心から感謝を表します。大学・短大の教職員・学生の皆さんとは、より良い大学づくりに向けた新たな決意を共にいたしたいと思っております。

昨年4月に本学学長に就任後、あっという間の9カ月でした。走りながら考え、皆様のご協力を得て、必要な改革の種を播き、苗を植えてきました。今年はその種が芽を出し、苗が順調に育つことを期待しながら、あわせて必要な施策を先に進めてまいります。

まず、新年の年頭に当たって、昨年7月に定めた本学の「理念と目標」を、あらためて心に留め置きたいと思っております。

「一に人物、二に伎倆」を謳う建学の精神と100年を超える学園の伝統を継承しつつ、新しい時代と社会に対応する活力のある大学をつくる。大学の総力を挙げて、在学生と教職員自らにとって、進学を目指す高校生にとって、そして地域社会にとって、魅力のある大学をつくる。

今、世界は、経済のグローバル化や情報化などの急速な展開を軸に、大きく変わりつつあります。また、一昨年の東日本大震災とそこで生じた原子力発電所の大事故以来、自然との向き合い方、科学技術の扱い

方、そして社会の在り方や豊かさの概念を含めて、人々の考え方・価値観が大きく変わろうとしています。

このような変化の時代・予測困難な時代にあって、大学に求められる第一の課題は「未知の事態に遭遇した時に、そこに存在する問題を発見し、その解決の道筋を見出す力」を備えた若い人材を養成することです。私たちはそれを「学ぶ力を育てる」と表現しました。私たちは、学生が「学ぶ力を学び取る」ことができるように、大胆なカリキュラムの改編や教育内容の検討を進めてきました。今年、その改革の芽が順調に、少しでも、育つ姿を見たいと心から願っています。

私は本学に就任以来、ほぼ毎日の通勤途上で、春日井、小牧、犬山の四季の風景の移り変わりを楽しんできました。本学のキャンパスもじつに四季折々の自然に恵まれています。本学は、日本の美しく懐かしい原風景を残しているこの地域にしっかりと根を下ろし、広く近隣の地域を学びの場として、若者の「学ぶ力」を育てます。名古屋経済大学は、地域との連携を強め、地域とともにある大学でありたいと思っております。

同時に、大学の「国際化」が今年の大きな課題のひとつです。本学はグローバル化の時代に応えうる有為な人材の養成を進めたいと思っております。海外の大学との国際交流を進め、留学生を積極的に迎え入れたいと考えます。また、本学の学生にも海外留学や海外でのインターンシップに勇気をもってチャレンジしてほしいと思っております。日本の企業が急速に海外展開しつつある時代に後れを取ることがないように、学生も「国際競争力」を磨くことが必要です。

これからの大学は、国際社会ならびに地域社会に開かれた大学でなければならないと考えます。留学生や社会人学生を含む多様な学生によって構成される学びの場が大学の常態であって、多様な人々との出会いやふれあいの中で学生が「学ぶ力」を磨くことができるようにしたいものです。

課題はまだたくさんあります。あるものについては拙速を恐れずに、またあるものについては慎重を期して、一つひとつ前へ進めてまいりたいと思っております。

本年も名古屋経済大学の「魅力ある大学づくり」にご理解とご支援をくださいますよう、お願い申し上げます。

インターンシップ

【アオキスーパー】

働くことの大切さと大変さを再認識した10日間

株式会社アオキスーパーで、商品出しや売場の整理、特売品の売価確認や農産部のお手伝いをさせていただきました。お店で接客する時は、お客様に失礼のないよう、お待たせしないように心がけて接客を行いました。お客様からの「ありがとう」という一言はとても励みになりました。



わずか10日間でしたが、働くことの大切さと大変さを再認識し、自分の長所と短所を明確にできました。今回の実習で学んだことを今後の就職活動にも役立てていけるよう努力したいと思います。

法学部 法学科 3年 山路 誉 さん

キャリアデザイン学科 学外コース別インターンシップ

【キャッスルプラザホテル】

ホスピタリティの大切さを学びました

ホテル業に興味があり、希望しました。最初は、「カフェ・プラザ」という喫茶店での実習。おしぼりを巻く、水を用意する、オーダーを聞く、テーブルの後片付けなどが主な仕事でした。運ぶ時は、おぼんを左手の手の平だけで支えて持たなければならず、慣れるのに時間がかかりました。落ち着いて対応できるようになると、接客の楽しさもわかるようになりました。次はレストラン「ローズガーデン」での実習。パンを切って並べる、パイキング料理を並べる、テーブルを片付ける、ナイフとフォークのセットなど、常にお客様の様子を見て行動するため、カフェ以上に大変でした。お客様に「ごちそうさま。ありがとう」と笑顔で言われた時は自分も笑顔になれ、とてもやりがいを感じ、達成感を得ることができました。

旅行・ホテルコース 1年 古川 桃子 さん



【テルミナセントラルクリニック】

医療現場で、より意欲的になれました

名古屋駅前にある医療法人松柏会テルミナセントラルクリニックは、主に予約制の健康診断をするところです。その受付で私は、受診者の名前をお呼びし、検査着に着替えていただく説明と案内、尿検査の案内、資料整理の手伝いをさせていただきました。検査着の案内は、検査内容によって上下の着替えが必要な方や着替えのいない方などさまざま、検査内容を把握するのに苦労しました。説明する時も緊張から声が出ず、うまく説明できませんでした。慣れてきた頃、わかりやすい説明をするよう努力し、笑顔も意識することができました。今回の実習で、医療事務や受付業務がどのような仕事かを体験を通して知ることができ、とても勉強になりました。自分の将来を考える良い機会となりました。

医療事務コース 1年 阿知波 英子 さん



【メーカケフ】

職場の人間関係の大切さを学びました

伝票の整理やファイル作成の作業が主な仕事でした。事務というとパソコン作業のイメージが強かったのですが、ファイル作成や伝票の整理など、手作業の仕事も多くあることを知りました。期間中に決算日があり、その日だけ別の部署で棚卸しをしました。建材を扱う企業だったので、確認する品数が多く、気が抜けない作業でした。必ず2回、別の人が在庫数をチェックして照らし合わせ、数の合わないものは再び行うという作業が一日中続きました。倉庫内には窓がなく風通しが悪いので、とても暑かったです。棚卸しは正確さが求められる作業なので、苦労しましたが良い体験になりました。

最終日には、社員の方から「お疲れ様」と声をかけていただき、嬉しかったです。皆さんが親切で優しく、とても恵まれた実習でした。

一般事務・金融コース 1年 鳥居 美紀 さん



【田原市役所】

進路と向き合うことの大切さに気づきました

市役所で「街づくり推進課」と「広報秘書課」の2カ所で実習させていただきました。前半は主に都市計画について学び、田原市内の区画整理中の工事現場や里山などを見学させていただきました。後半は主に広報の仕事について学ばせていただき、私の記事も広報に掲載させていただきました。

インターンシップに行く前は、安定した収入を得るために公務員を目指し、仕事内容については理解していませんでしたが、実習後は公務員にもさまざまな部署や仕事があることを知り、それまで持っていたイメージが180度変わりました。また、仕事に就くには柔軟性と意欲的に取り組む姿勢が大切であることを学びました。これらの体験を通して、自分の進路と向き合うことの大切さに気づくことができました。ありがとうございました。

公務員・編入学コース 1年 阿部 里美 さん



【愛知北FM】

難しい仕事だけに、やりがいがありました

放送業界に興味があり、実習先として愛知北FMを希望しました。最初は機器操作を教えてください、放送中に私が音を管理しました。回数を重ねるうちに慣れ、一人で番組を進められるようになり、パートナーの方々とコミュニケーションを図ることもでき、楽しく実習できました。

中継にも何度も同行させてもらい、コメントもしましたが、言葉だけでリスナーに画を想像してもらうのはとても難しいことだと知りました。



愛知戦国姫隊の姫様方にインタビューをした時には、皆さんから優しいフォローと褒め言葉をいただくことができ、光栄に思いました。実習が一番嬉しかったです。最終日は20分番組を担当させていただき、ニュースやお知らせの原稿を読みました。音の空白を作らないように、またわかりやすい言葉を選んで、リスナーの皆さんに楽しんでいただける内容を心がけました。

就職活動の面接にも生かせる良い体験ができました。

放送・情報コース 1年 青山 花 さん

就職内定者

面接では強い気持ちを伝えることが大切

私は愛知県教員採用試験に合格し、来年度から愛知県内の小学校で教員として働くことになりました。採用試験に合格するためには勉強が大切だと、たくさん勉強している方々も多いと思います。確かに勉強も大切だと思いますが、「絶対に教員になりたい」という強い気持ちを伝えることが一番大切だと私は考えます。授業では、採用試験に役立つ面接内容が書かれたプリントをもらい、実際に面接の練習もしていただきました。私が気がつけたのは、「面接でいかに自分の考え

をわかりやすく相手に伝えるか」という点です。また、1つの質問に対して1つの答えではなく、いくつも用意しておくことで、面接で踏み込んだ質問をされてもすぐに答えることができると思います。自分の気持ちを素直に試験官の方に伝えることができれば、採用試験に合格できると思います。

皆さんも頑張ってください。応援しています！

【愛知県教員採用試験】合格

人間生活科学部 教育保育学科 4年 篠原 里佳 さん



4年間を振り返って

4年前、私は名古屋経済大学に入学し、硬式野球部に入部しました。大学生活で大変だったことは、学問と部活の両立です。4年生になってからは特に、就職活動をしながら部活動を続けるのが大変でした。4年生は学生生活の最後の年。一日一日を大切に部活練習や試合に取り組んでいましたが、会社説明会や就職試験のため、試合や練習を抜けることも多くなりました。しかし、部活も就職活動も後悔することなく、無事に終えることができました。

振り返ってみると、部活も就職活動も自分1人の力ではとても両立できなかったと思います。目標に向かってともに頑張ってきた仲間、先生、大学の職員の方々など、素敵な人たちの恵まれた出会いがあったからこそ、達成できたのだと感じます。皆さんからのアドバイスにも非常に助けられました。感謝しています。

【防衛省 航空自衛隊】内定

法学部 法学科 4年 則次 健杜 さん



就職活動は、まず行動することが大切

就職活動を始めた時は、「何をすればいいのか」「どのジャンルの企業を受けるのか」「自分自身がやりたいことは何か」など、わからないことばかりでした。その中で自分ができることを探し、たくさんの人に相談した結果、今までやってきた剣道が続けることができる企業を受けようと決めました。内定をいただくまでは、キャリアセンターで社会に出るための準備や常識を教えてもらうなど、試行錯誤の繰り返しでした。

皆さんにアドバイスしたいのは、就職活動はまず行動することが大切だということ。自分の性格・強み・弱み・好きなこと

などを知り、自信を持って小さなことでも何でもいので行動に移すことが内定につながると思います。夢があり、やりたいことが決まっている人は少ないと思います。頑張って勉強やスポーツに打ち込んでいる人はたくさんいると思いますが、就職活動でも就職してからでも、今頑張っていることがきっと役に立つと思います。後悔することがないように頑張ってください。

【中京総合警備保障株式会社】内定

経営学部 経営学科 4年 松田 みどり さん



卒業生の活躍

司法書士試験に合格

司法書士を目指したのは、友人から貸金債権回収の相談を受け、手続きを行ったのがきっかけです。司法書士試験の合格率を見ると2.8%とあり、100人受験しても2人しか合格しない超難関試験・・・正直合格する自信はありませんでした。しかし、行政書士試験合格と法学部研究室での実績により「もしかしたら合格できるかもしれない」と思い、また両親と担当教員が背を押してくれたおかげでチャレンジすることにしました。

合格のコツは、合格率の低さを気にせず自分のペースを保ち勉強にメリハリをつけることです。合格者は余分なことをせず、必要な知識のみを習得しています。過去問と模試を何度も解けば合格ラインには達します。具体的な勉強方法はここでは省略させていただきますが、とにかく過去問と教科書を何度も読んでください。教科書を完璧に理解すれば合格できます。記述はとにかく問題集を解きまくってください。(体に叩き込む勢いです)

私は、高校や学部時代の成績も優れたものではなく、決して勉強が得意な方ではありませんでした。また、勤務先も深夜1時頃まで残業があり、1日3時間の

勉強時間しか確保できませんでした。それでも覚悟を決めて勉強したので合格できました。この体験記を見た方が、「合格率2.8%の試験でも福島が合格できたのなら自分でも合格できるだろう」と思っていたら幸いです。

皆様の今後のご活躍を心より祈念しています。

法学部 2007年卒業 **福島 崇弘**さん

Profile

ふくしま たかひろ
三重県津市出身。2012年11月、司法書士試験合格。(受験回数3回)2007年3月、名古屋経済大学法学部卒業。2008年3月、名古屋経済大学法学部特別研究室修了。2008年5月、司法書士法人LEGAL SQUARE入所。司法書士、行政書士、マンション管理士、管理業務主任者、宅地建物取引主任者、2級FP技能士、ビジネス実務法務検定2級、日商簿記検定2級 などを取得。



英語教育センター公開講演会

実利にとらわれない勉強が人生を豊かにする

11月22日(木)、9時半より本学7D4教室にて講師、水野幹雄氏(元旭丘高校教諭)による学内講演会が開催されました。演題は、「実利にとらわれない勉強が人生を豊かにする」。聴講した学生は人間生活科学部1年生が約90名。また、犬山や小牧在住の市民の方々、約10名も参加されました。

勉強には、実利を求める勉強と人生を豊かにする勉強のふたつがあり、後者の勉強は一見なんの役にも立ちそうにないように見えるが、実は人生を実りあるものにする大切な勉強である、というのが講演の主旨でした。古今東西にわたる詩歌の引用もあり、特にフランス世紀末詩人、ラフォルクの詩の朗読は圧巻でした。普段の教室では聴けないような貴重な講演でありました。(法学部 堀田三郎)



講演をする水野幹雄氏



熱心に聴講する学生たち

犬山オープンカレッジ

学術研究センターでは、犬山市(犬山市教育委員会・犬山商工会議所)と提携して「犬山オープンカレッジ」を年4回開催しています。その中の3回は、外部会場(犬山国際観光センター・フロイデ)で開催し、1回は学内で開催しています。本年度は右記のような日程で行われ、多くの方々にご来場いただきました。

どの講演も講演者の専門性を生かした充実した内容で、参加者からは数々の専門的な質問や鋭い指摘が寄せられ、会場は熱い熱気につつまれました。毎回ご好評をいただいております「犬山オープンカレッジ」は、来年度も引き続き開催する予定です。(経営学部 高松和宣)

- 第1回 | 9月29日(土) フロイデ (参加人数 57名)
野方大輔講師 「お金の面から見る日本の企業」
- 第2回 | 10月20日(土) 本学7D4 (参加人数 47名)
安藤悦夫教授 「日本を記念する音楽」
- 第3回 | 11月17日(土) フロイデ (参加人数 48名)
伊藤誠教授 「認知症」
- 第4回 | 12月15日(土) フロイデ (参加人数 23名)
川上博英准教授 「新会社法と会社のしくみ」



第1回の講演の様子

合同同窓会

大学院・大学・短大合同同窓会を開催

11月11日(日)、名古屋市内の名鉄グランドホテルにおいて、大学院・大学・短大合同同窓会懇親会が開催されました。来賓と卒業生、総勢186名が出席しました。歓迎の意をこめて沖縄県から出席した卒業生によるエイサー公演の後、大学院同窓会の朝倉充俊会長の開会挨拶で懇親会が始まりました。

懇親会の中盤には、短大卒業生でJAZZシンガーとして活躍するSACHIE(高松幸恵)さんによるミニコンサートが行われ、大いに盛り上がりました。

懇親会は各同窓会のますますの発展を祈念し、盛況のうちに閉会しました。



歓談の輪が広がり、盛り上がりを見せる懇親会



迫力ある「エイサー」の演舞で幕明け



大学院同窓会 朝倉会長の挨拶



大学の記事を手に挨拶をする佐々木学長



SACHIEさんのミニコンサート

比較文化研究会 市民開放講座

比較文化研究会の市民開放講座は、学術研究センター主催の「犬山オープンカレッジ」と並ぶ本学の2大市民講座であり、尾北地方にお住まいの方々の間では「比較文化の講座」と呼ばれて市民権を得ております。

市民公開講座の前身は単発の「公開講演会」で、比較文化研究会でも1999年(平成11年)に、愛知県埋蔵文化センターの赤塚次郎氏「邪馬台国と狗奴国:犬山東之宮古墳の謎に迫る」や、翌年2000年には郷土文学研究家の川出博章氏による『ふる里の詩人佐藤一英』などの講演会を開催してきました。名実ともに「市民講座」と呼ぶに相応しい体制を整えたのは2008年(平成20年)で、『比較文化研究会・市民開放講座』という名のもとに11講座が開かれました。その受講者の大半は、定年退職された60代から70代の方々でした。それ以来、本学教員が担当することを原則として、毎年およそ10講座ほどを開講してきました。

今年度は、10月初旬から12月初旬の間の土曜日に6講座を開講しました。初回(10月6日)は本学経済学部教授の宮川昇氏による『平家物語とホメロス』の講座が開かれ、NHK大河ドラマ『平清盛』の低視聴率の原因が解き明かされました。第2回(10月20日)は、元NHKの人気番組『プロジェクトX』のエグ

ゼクティブ・プロデューサーで本学客員教授の今井彰氏が『日本人の底力』と題し、番組制作の苦労話などを話されました。第3回(10月27日)は本学短期大学部副学長の高田豊貴氏による『市や町の名前を考える』の講座が開かれ、全国に広がっている「珍しい名前」の紹介と問題点が紹介されました。第4回(11月10日)は本学短期大学部教授の日比野光敏氏が『不思議ないなりずし』と題し、ポピュラーな「いなりずし」の歴史と全国的な分布図などを話されました。第5回(12月1日)は本学経済学部講師の田村善弘氏による『韓国旅行でみた日韓の違い』の講座が開かれ、ショッピング場面を中心に日韓の風習の違いが語られました。最終回(12月8日)は、本学の卒業生でラッピングコーディネーターの最高位マイスターの資格を持って活躍している小山晴子氏によるクリスマスプレゼント向けのラッピング講習会が持たれました。どの講座も好評で、市民の方々から「来年も楽しみにしています」とのご声援をいただきました。

(短期大学部 キャリアデザイン学科 代田義勝)



第2回の講座の様子

キズナ強化プロジェクト

国際交流の輪ひろがる

外務省が実施する「キズナ強化プロジェクト」では、アジア大洋州地域および北米地域の41の国・地域から青少年を日本に招き、交流プログラムや被災地視察、復興支援活動体験などを行っています。本学も、同プロジェクトの交流プログラムにおいて学生を受け入れています。

11月1日(木)には、台湾の高校生100名が来学しました。最初に堀尾准教授による「食の安全」に関する模擬講義が行われ、日常の食の安全に加えて、被災時の食や食品の放射能問題についても語られました。その後、コミュニティプラザに移動し、学生が作った特製のお弁当を食べながら、台湾の高校生たちとの交流を深めました。

台湾の高校生が本学を訪問

今回、管理栄養学科2年生が中心となり、来学された台湾の高校生のために昼食のお弁当を作りました。まず、メニューを立案するにあたり、学生から「給与栄養目標量はどうするのですか?」との質問がありました。献立作成の際には、はじめに「対象者(あくまで日本人)にどれくらいの栄養量を給与するのか」という目標量を設定します。今回は、日本を体験していただくということで、日本における高校生の年代を対象に目標量を設定しました。

次に、文化の違いです。「食べることが禁じられている食材はあるのでしょうか?」「お箸でいいのですか?」との質問がありましたが、この点についても問題はありませんでした。知っていて当然ということも、いざとなると不確かなもので、いつもは気にしない点についても考慮しながら準備を進めました。はたして、台湾の高校生の皆さんには満足していただけたのでしょうか。気になって昼食後に残食状況を確認しましたが、残さずきれいに完食していただけており、安心しました。このような機会は多くありませんが、学生にとっては新鮮な体験です。普段の授業では得ることができない、特別な学びがあったと感じています。

(人間生活科学部 上延麻耶)

タイの学生の意見から見えてきたもの

「キズナ強化プロジェクト」では、タイの学生と被災地についてディスカッションしましたが、彼らの被災地に対する意見が想像とまったく違っていったことに、驚きました。

私は今年の9月に被災地を訪れた際、まだ山のように残されているがれきにショックを受けました。しかし今回被災地を訪れたタイの学生は、がれきの少なさ、復興の速さに驚いたそうです。ボランティアの内容も、がれきの撤去や炊き出しといった被災者の暮らしをサポートする内容だと思って来たのに、旗を作るなど、心の支えになるボランティアだったことが意外だったそうです。タイの学生から見ると、「日本の復興はとても早く進んでいる」と話してくれました。

私はこの意見を聞き、復興が速いために支援することがある種の流行のような認識になっているのではないかと、気付かされました。震災から1年半後に被災地へ行くことになった時、「なぜ今さら被災地へ行くのか?」と多くの人にきかれました。震災で失われ、決して元に戻らないものがたくさんあります。東北とつながり、サポートし、新たな価値や産業を生み出すためには、長い時間が必要です。私はこれからも継続して東北を支えていきたいと思っています。

人間生活科学部 管理栄養学科 4年 富川 由紀 さん

また、12月3日(月)には、タイの大学生31名が来学しました。午前中は「被災地体験の共有」を目的に、交流会を行いました。本学学生は、夏に訪問した被災地での体験やそこからの学びについて、そして経済学部が取り組んでいる地域防災マップの報告を行いました。一方、タイの大学生からは、東北でのボランティアや交流の体験、2011年にタイで起こった洪水の体験についての報告がありました。その後、3グループに分かれ、被災地についてのディスカッションが行われました。



歓迎の挨拶をする歌さん



名前プレートを手に質問をする高校生



手づくり弁当の説明をする大倉さん



歓迎の挨拶をする佐々木学長



震災ボランティアについての報告



タイの学生とディスカッション

Relay Essay 019 リレーエッセイ

バドミントンでストレス解消!

みなさん、ストレス解消できていますか。私の趣味は、バドミントンです。というより、恋人みたいな存在です。私がバドミントンを始めたのは浜省※の詩のフレーズじゃないけど、「僕は、二十歳でまだキャンパスも春」でした。誰にでも簡単にできる、いわゆる「羽根突き」だと思い、はじめたのが最初でした。はまったきっかけは、体が小さく特に運動神経が優れているわけでもない私が、自分より体格のいい相手に勝ったことにあると思います。当時の私は、身長161cm、体重48kg前後のカンボでした。当然、体力的には他の選手に劣ります。おそらく相手はなめてかかってくるわけで、そこには落とし穴があるわけです。こちらにはスマッシュがない、というより打っても遅いの打ちません。それで、チャンスボールらしき球をわざと上げるわけです。はじめのうちはサンドバック状態でやらればなしなのですが、だんだん相手に慣れてきて返球できるようになります。ゲームの終わり頃には相手も相当バテてきて、作戦を変えてくるのですが、その時にはもう手遅れ。こちらは体重48kg前後のカンボ、相手がバテてしまったら、技術もパワーも関係なし。富士急ハイランドの「マッドマウス」のようにちょこまか動き、シャトルを拾いまくっているうちに、コートにはいつくばらせてしまう。そして、後ろを向いて、あかんペー。(ああ気持ちいい)

人間生活科学部 管理栄養学科 鈴木 康夫 准教授

バドミントンが、体にいいスポーツだと思ったら大間違い。私くらいの年齢になると9割は、どこか故障しています。私も数年前に膝を故障し、車のクラッチを切れないくらい痛め、さらに腓腹筋を断裂し、松葉杖生活を強いられました。それでも、バドミントンをやめようと思ったことはなかったし、今も続けております。ここまでではまる理由?自分でもよくわかりませんが、落ち込んだ時、シャトルを追いかけたり立ち直ったことは事実。人生いつも逃げてばかりではいけません。気分転換できる趣味を持っていると、少しくらいの困難は乗り越えていけるように思います。みなさんにもそんな趣味がありますよね!たかがバドミントン、されどバドミントン。70歳まで続けたい。

※浜田省吾:広島県生まれのシンガーソングライター、ロックミュージシャン。愛称は浜省(ハマショー)。「風を感じて」「悲しみは雪のように」「J.BOY」などのヒット曲がある。



Profile

すずき やすお
静岡県立大学生生活健康科学研究科修了。博士(食品栄養科学)。日本学術振興会特別研究員DC2(2000.1~2002.3)研究テーマは、「緑茶の健康増進作用」。

●リレーエッセイ 今回は、短期大学部 キャリアデザイン学科 渡邊道育教授です

高大連携

犬山南高校の大学講義体験事業

犬山南高校の全校生徒が本学の講義を体験する事業も今年で3年目を迎えました。6月5日(火)は、3年生が田村、李、石井、萩原、楯、市毛先生による計6講座から希望した講義を体験。11月6日(火)には、2年生が佐分副学長による「日本が、明治、第2次世界大戦後と並ぶ大きな大転換期となっている現在、何を学び、どのような人材が必要か」をテーマにした講座を受講しました。また11月13日(火)には、1年生が佐々木学長による「主権国家の誕生や国家の領域などについて」をテーマにした特別講義を受講しました。

高校生の事後レポートでは、「国家とは何かしっかりと知らなかったけど、今回よくわかった」「学ぶ上で重要なことは強制されず、体で覚えることを知った」「冒険心や創造力が豊かな人材がこれからの社会で必要とされることが理解できた」「経済の話は難しかったけど、大学講義のイメージができた」といった感想



佐分副学長の講義

笑顔で女子高生の質問に答える学長(左)

が寄せられました。講義体験の後は、体育施設、図書館、幼稚園、情報センター、キャリアセンターの5コースに分かれてキャンパス見学を行い、体験事業は無事に終了しました。

「成人式」メモリアルインタビュー

二十歳の「夢」

今心に強く思うことは、両親への感謝です。決して親にとっていい子ではなかったと思いますが、私のために沢山のことをしてくれました。ドラゴンズ好きな私が名古屋で2年間自由に学生生活を楽しめたのは、私の「夢」を叶えてくれた両親のおかげです。社会人になったら自立した大人になり、恩返しをしていくつもりです。



短期大学部 キャリアデザイン学科 2年 楠橋 美幸 さん

責任感を持った大人に

今までの私は、何をしても周りの人たちに支えられてきました。しかし、二十歳になった今、学生やアルバイトという立場から、責任ある社会人という立場に変わります。これからは、今まで支えてくれた周りの人たちに感謝の気持ちを忘れず、私が周りの人たちに支えられるよう、自立した大人になりたいと思っています。



短期大学部 キャリアデザイン学科 2年 加藤 彩乃 さん

「あかりの明治村」で競演

11月23日(祝・金)・24日(土)、明治村と本学学生とのコラボレーション企画が実現。経済学部が「灯りアート」、カフェメレンゲは「喫茶店」、管理栄養学科の李ゼミは「お弁当」で、それぞれが「あかりの明治村」を盛り上げました。

「灯りアート」に参加して

「くらしと観光」の授業の一環として、初めて「灯りアート」に参加し、観光のアイデアを創出する難しさと、完成させた時の達成感の大きさを知りました。準備までの時間が短かったにも関わらず、「どうやったらきれいに見せられるのか」などさまざまな意見を出し合い、とても意味あるイベントになったと思います。明治村の協力はもちろん、ボランティアの方々や廃油のランプを作る時に協力して下さったレストラン「ローレイ」の吉野さんの助けもあり、当日の作業工程がしっかりと進み、急なデザインの変更などにも柔軟に対処できました。

いつも大学で受けている授業とは違い、大変な面もありましたが新鮮な授業でした。

経済学部 現代経済学科 1年 武田 幸二 さん



もみじの「灯りアート」只今準備中

芝生広場に出現した「大きな流れ星」

「はいから喫茶 もみじ」を出店して

カフェメレンゲの学生スタッフは、「はいから喫茶 もみじ」という喫茶店を出店させていただきました。

美しく紅葉したもみじの木の近くにお店を構えたこともあり、ライトアップを見に来られた来場者の方々が次々と訪れ、2日間で約300人の方々に利用してもらうことができました。私は、ワッフルを焼いていたのですが、お客様から「ワッフルおいしかったよ」という言葉をいただくことができ、ワッフルを作るのにさらに気合いが入り、嬉しかったことを今でも思い出します。

今回の出店で、忘れられない大切なものを、2つ得ることができました。それは、お客様からの温かい感謝の言葉と、協力していただいた明治村スタッフの方々との大きな絆です。この経験を生かし、社会に出ても感謝されること、協力し合うことを忘れないようにしたいと思います。

メレンゲ学生スタッフ 法学部 法学科 3年 稲垣 哲夫 さん



「はいから喫茶 もみじ」大盛況!

ふっくらワッフルできあがり

みんなの支えて「明治村おめかし弁当」完売!

管理栄養学科の李ゼミ4年生は、地元犬山の食材を使ってお弁当を作ろう!という「犬山弁当作りプロジェクト」に参加しました。就職活動と国家試験のための集中講義や模試など、ハードなスケジュールをこなしながら5月の説明会から半年をかけて準備を進め、11月23日の販売当日を迎えました。今にも泣き出しそうな空を気にしながら、紅葉に彩られた明治村へ。出足は鈍かったのですが、お昼を過ぎると小さな子ども連れの家族を皮切りに、用意した「明治村おめかし弁当」は2時間ほどで完売!「おいしかったよ」の声に、寒さでこぼれていたみんなの顔にも笑顔がはじけました。

自分たちの手で商品化から販売までをこなすのは大変なことばかり。最後の試食会で、明治村のスタッフさんからいただいたアドバイスは、まさに目から鱗でした。それ



小さなお客様



栄養たっぷりのお弁当に笑顔プラス

は、「すべての素材を見せる=魅せる」ということ、そしてお弁当を手にとってもらい、「おいしそう」という声を購入にまで結びつけるには、さまざまな努力と販売者としての責任が伴うということ。プロの技や心構えを直接教えていただいたことに、感謝しています。

人間生活科学部 管理栄養学科 4年 水谷 友紀 さん

「犬山秋のたっぷり弁当」

「おれんじや」とのコラボ弁当、大好評!

管理栄養学科の李ゼミ3年生は、5月に「犬山弁当作りプロジェクト」を立ち上げ、それから6ヶ月後、地元食材を使った弁当作りに取り組みました。

お客様が思わず笑顔になるような、おいしくて栄養満点の理想のお弁当を作るため、季節感やパッケージにも気を配りました。主食・主菜・副菜・デザート・パッケージの担当を決め、それぞれがアイデアを出し合い、友人や先生方にもアンケートにご協力いただきました。何度も試作を重ね、ダメ出しにくじけることもありましたが、味付けや食材の切り方に至るまで、プロである「おれんじや」さんのアドバイスは、本当に勉強になりました。お金をいただくという責任の重さを感じながら全員で力を合わせ、何とか販売にまでこぎつけました。

最初の販売は10月27日(土)、犬山お城まつり。「犬山秋のたっぷり弁当」と名付け、170個を売り切りました。この日は、李ゼミの4年生と経済学部特別研究室の1年生3名も参加。1年生は弁当の運搬や「お弁当いかがですか?」と呼び込みも手伝ってくれ、頼りになる仲間が増えました。「学生さんなの?がんばってるね」「おいしかったよ」と、お客様から声をかけていただき、「やったね!」とガッツポーズが出るほど。最初は小さかった声も次第に大きくなり、近くのお店から「みんなで食べて」と田楽やまんじゅうの差し入れや、軒先をお借りした「山田五平餅店」のご主人からは手書きのポスターをプレゼントしていただきました。



「ありがとうございました」の声にもチカラがはい

大好評だった「犬山秋のたっぷり弁当」。翌月は11月16日(金)に限定140個を学内販売しました。完全予約制のため、当日うわさを聞いてこられたお客さんは、残念そうに帰っていかれました。「ゼミのみんなと食べます」と、両手に抱えるほど買っていかれた先生もいらっしゃいました。

このプロジェクトを通して、ゼミ生が一丸となり結果を出せたこと、一人ひとりが成長できたことも実感できました。私たちを支えてくださったすべての皆さまに感謝いたします。「ありがとうございました」

人間生活科学部 管理栄養学科 3年 高橋 知里 さん



販売準備におおわらわ

犬山の食材と「秋」がたっぷりつまります



プレゼントされた手書きのポスターを手に「にっこり」

「名古屋市消費生活フェア」

「大学生と考える食と農」の活動を紹介

11月3日(祝・土)・4日(日)、名古屋市のオアシス21で開催された「名古屋市消費生活フェア2012」に、経済学部特別研究室地域社会研究チームと学生カフェメレンゲが合同でブースを出展しました。地域社会研究チームは「大学生と考える食と農」というタイトルで、栽培している農産物(さつまいも、ハーブなど)、栽培から収穫までの活動、収穫した農産物の利用など、学内の畑で実施した活動を紹介しました。

今年度初めての参加でしたが、「食と農」という関心の高いテーマだったせいか、出展ブースを訪れた方々からは、研究室やカフェの取り組みについて、さまざまな質問が寄せられました。時には鋭い質問に戸惑うこともありましたが、出展者は、参加者、出展者、消費生活に関わる関係者とそれぞれ交流ができ、有意義な経験ができました。(経済学部 田村善弘)



来場者に懸命に説明をする地域社会研究チームのメンバー

「健康まつり 2012」

市民の健康支援のために臨床栄養センター出動

11月3日(祝・土)・4日(日)に丹羽郡大口町で行われた「健康まつり 2012」(つなぐれ ひろがれ いきいき大口 2012ふれあいまつり)の1日目に、本学臨床栄養センターは共同研究先の大口町健康福祉部の要請により、「健康チェックコーナー」を担当。市民のために健康支援を行いました。

当日は、他のイベントもたくさんある中、行列ができるほど大盛況で、健康に関心のある方が260名ほど来場されました。早川ゼミの4年生は、管理栄養士の大学院生と健康推進市民団体「脱メタボおじさまの会」とのコラボレーションで、体組成・肺活量・骨密度・握力などの測定や、食事調査・味覚チェックなどをなごやかな雰囲気の中、実施しました。また、管理栄養士実務教員による

「栄養相談コーナー」では、生活習慣病などの食事療法について紹介。説明やアドバイスがわかりやすいと好評でした。

地域の方とふれあう中で、食生活の大切さや健康意識の高まりを実感し、地域の中での臨床栄養センターの役割について再認識した1日でした。

(人間生活科学部 早川麻理子)



肺活量をチェック

「いきいき栄養・健康チェック相談」

管理栄養士養成の生きた実践学習

11月10日(土)、管理栄養学科3年生臨床栄養学実習の一環として、本学で市民を対象に健康チェックと栄養相談を実施しました。現在、市民の登録会員は100名を超え、学生の臨床栄養技能向上のために、実践の場を与えてくださっています。特にレギュラーで参加されるリピーターの方は、日頃から本学図書館で栄養について勉強をされたうえで、学生に対して難題を出されます。

また、来学者の中には胃がん手術後の患者さんや高血糖の糖尿病患者さんなど、栄養療法を必要とされる難治症例の方もいらっしゃいます。

「百問は一見にしかず」というように、このような生きた実践教育は、現場で

の緊張感を高め、管理栄養士としての資質を学ぶには絶好の機会と言えます。

それだけに、実習終了後は学生の学習意欲が明らかに向上します。また実際の市民を相手に一生懸命応えようとする学生の姿勢が微笑ましく、教員自身も身の引き締まる思いです。

(人間生活科学部 早川麻理子)



会員の方の話に真剣なまなざしを傾ける学生

「2012いきいきこまき」

「米について!!」精米や栄養指導を体験

管理栄養の学生及び有志は、去年に引き続き、2012いきいきこまきの「農業祭」にボランティアとして参加しました。ボランティアには、1年生も積極的に参加してくれました。今年からは私がリーダーということで不安もありましたが、「米について!!」をテーマに、本学学生と他大学の学生とともに精米体験や栄養指導などを行いました。栄養指導後、お客様から「勉強になった、ありがとう」といった言葉をいただき、管理栄養士として働く夢がより一層膨らみました。また、このようなイベントで地域の方々とふれあう機会の大切さも知ることができました。

今年も短い時間ではありましたが、小牧市食育推進チームの皆さんをはじめ、「農業祭」に足を運んでくださったお客様との交流・絆を深めることができたと思います。また、小牧市の栄養教諭の方々には、温かいお言葉をかけていただき本当に感謝しております。来年もリーダーとして頑張っていきたいと思っています。

人間生活科学部 管理栄養学科 2年 花木 俊希 さん



ソフトボールとすり鉢で精米体験



1日に必要な野菜、ちゃんととれたかな?

「広報こまき」の取材を受ける花木さん(左)と榎原さん(中)

第9回「いちむらっこまつり」開催

12月13日(木)、附属幼稚園にて「いちむらっこまつり」が開催されました。2年間の学習成果の集大成として、2年生が企画・運営を行い、実践するものです。

9月下旬、今年のテーマを決定。シアターチームと製作・運動遊びチームに分かれ、全員の子どもたちが楽しめる企画を考え、準備に取りかかりました。本番2週間前に1年生を園児役に「プレまつり(=予行演習)」を行いました。「よりよいものにするにはどうすればいいか」と、改善に取り組み、当日を迎えました。学生たちは、さまざまな「学び」や、「学び合い」を経験することができました。

(短期大学部 保育科 船井廣則)

卒業前に貴重な体験ができました

今年の「いちむらっこまつり」のテーマは、「ともだちいっぱい」。子どもたちは「くれよんのくろくん」の人間劇を見たり、色水の入ったペットボトルでボウリングや輪投げをして遊びました。色水は、いちむら幼稚園のクラス数である7色を作り、ブルーシートを空に見立て、子どもたちにペットボトルを並べてもらいました。そこに、年長さんが、雲や鳥を並べて大空に虹が架かった1枚の絵が完成しました。この活動を通して子どもたちに、よりわかりやすくテーマを伝えることができました。

準備などとても大変でしたが、子どもたちの楽しそうな笑顔を見ることができ、卒業前に貴重な体験ができました。準備や当日にお手伝いをしてくれた1年生の皆さん、ありがとうございました。来年は皆さんが中心となって活動していくと思うので、頑張ってください。

短期大学部 保育科 2年 両角 香 さん



子どもたちに大人気の「人間劇」



何ができるかな? つくった色水で「ボウリング遊び」



「大きな虹ができました!」と声をあげ、司会をつとめる両角さん(右)

英語で遊ぼう

子どもの表現力を豊かにする「英語遊び」

私は前田先生と一緒に、いちむら幼稚園の年長組で「英語遊び」をしています。子どもたちはとても英語に興味を持ち、楽しんでくれます。私たちは、教室に入る時は英語で挨拶します。「Good morning!」「It's sunny today!」など、子どもたちは自然に英語で返してくれます。11月に行った時は、動物の英語の絵本を読みました。絵本に出てくる動物の名前を英語で言い、みんなでその動物になりきりました。その後、覚えた英語でビンゴゲームを楽しみました。

小さい頃から英語にふれることで、子どもの表現力が豊かになると思います。

短期大学部 保育科 1年 長瀬 伊央 さん



「英語で遊ぼう」に参加している長瀬さん



園児と一緒に「英語ゲーム」

クリスマスの英語レッスン

私は、毎年クリスマスにいちむら幼稚園で特別な英語レッスンをしています。まず、サンタクロース、雪だるま、クリスマスツリーなどの指人形を使って、クリスマスにまつわる言葉を子どもたちに覚えてもらいます。そして、クリスマスの絵本を読んだ後、ゼミ生たちと一緒にクリスマスツリーを飾ります。その際、子どもたちにデコレーションの形や色を英語で言ってもらいます。レッスンの最後には、クリスマスビンゴをします。私のゼミ生はこのイベントに楽しんで参加しており、将来彼女たちが幼稚園や保育園の先生になった時に英語を使った活動ができることを期待しています。

(短期大学部 保育科 前田アンドレア)



前田先生の英語レッスン

強化指定クラブ

●剣道部 男子が初の全国大会出場へ

9月8日(土)、女子は東海女子学生剣道優勝大会に出場しました。1回戦は昨年優勝した中京大でしたが、「負けてもいい! 思いきりぶつかってこい!」という監督の言葉で選手は必死に相手と戦い、勝利しました。準々決勝では皇學館大学に負けてしまいましたが、年々「力」がついてきていると感じました。



9月9日(日)は男子の大会があり、4校リーグ戦の結果、決勝トーナメントに進出。岐阜大学、中部大学に勝って準決勝に臨みましたが、惜しくも愛知大学に2-3で敗れました。しかし、3位入賞で初の全国大会出場を果たすことができました。応援ありがとうございました。

●ラグビー部 来シーズンこそ、A1(1部)リーグ昇格!

今シーズンは何とか勝ち進んでいったものの、ギリギリの試合を続けていたせいか、実力が拮抗している相手に惜しくも敗れてしまいました。そして、「ここで勝たなければ、A1(1部)リーグ昇格がほぼ不可能」という一番大事な試合でも、ラストワンプレイで逆転負けというとても残念な結果となりました。

また、2次リーグ(順位決定リーグ)においても、最終戦に負け、A2(2部)リーグ4位という結果になりました。来シーズンこそは、A1リーグに昇格して全国地区対抗大会「出場」を目指したいと思います。



●硬式野球部 1部昇格の夢に向かって

平成22年秋に名経大硬式野球部監督に就任して2年、「平成24年度 愛知大学野球連盟春季リーグ戦」にて、3部優勝。2部、3部入替戦では、星城大学に勝利し、2部昇格を成し遂げることができました。「平成24年度 秋季リーグ戦」からは2部～5部の組織変更があり、1部～3部制に移行。1部6校(現状)、2部12校(A6校・B6校)、3部11校(A6校・B5校)に変わり、名経大は2部(B)にて秋季リーグ戦を戦い、5勝5敗、2部(B)4位の戦績で終了しました。

今後は、選手とともに今まで以上に練習に励み、野球の基礎から鍛え直し、1日でも早く名経大硬式野球部念願の1部昇格、優勝、全日本大学選手権出場という夢をかなえたいと思っています。(硬式野球部監督 平林二郎)



●男子バスケットボール部 インカレ出場を目指して

私たちバスケットボール部は一昨年に2部リーグ、昨年は1部リーグに昇格し、今年はインカレを目指して「第83回東海学生バスケットボールリーグ戦」を戦いました。結果は、2勝5敗と残念な結果に終わってしまいました。来年は強化クラブになって初めて、4年生まですべての学年が揃います。大変なこともあるかもしれませんが、チームとして一致団結し、来季は良い結果が残せるように頑張ります。

今年の結果により来季は下位リーグからのスタートになります。しかし、下位リーグからでもインカレに出場できますので、一戦一戦を勝ち抜いてインカレ出場を目指し、結果を残したいと思います。



～市邨校～ 市邨生、全国へはばたく!!

水谷さん 英語スピーチコンテスト2連覇

3年生の水谷蓮穂さんが、10月20日(土)に県立中川商業高校で開催された「全商英語スピーチコンテスト」のレシテーション部門で昨年に引き続き優勝し、2連覇の偉業を成し遂げました。

その素晴らしいスピーチは、3年生全員が参加した卒業論文発表会でも披露され、とても日本人とは思えない発音に聞かすすべてが圧倒されるほどで、県大会2年連続優勝のレベルの高さを改めて知ることができました。

水谷さんは1月13日(日)に東京の全商会館で行われる全国大会に出場し、昨年果たせなかった全国優勝に挑みます。



2連覇を果たした水谷さん

バトン部25年ぶりの全国大会

バトン部は県大会を勝ち抜き、10月27日(土)に行われた「第38回マーチングバンド・バントワリング東海大会」に出場しました。小編成部門の中でも少人数8人での出場でしたが、キレのある演技が人数の少なさをカバーし、見事「金賞」を受賞。団体としては、25年ぶりとなる全国大会出場の快挙を果たしました。

12月8日(土)には、千葉県の幕張メッセで行われた「第40回記念バントワリング全国大会」で銀賞を受賞しました。前日に行われた全校集会で、全校生徒の応援を受けて全国大会の大舞台に臨み、東海大会で本校より上位

にいたチームを上回る成績を収めることができました。全国大会出場が決まってからの短い期間に一段と厳しい練習を重ね、チームとして大きくレベルアップしたことが証明されました。



全国大会「銀賞」を獲得したバトン部

軽音楽部 NHK Eテレ「スクールライブショー」に出演

軽音楽部は12月8日(土)、瀬戸市文化センターで行われた「NHKスクールライブショー バンド・バトル中部大会」に愛知県の代表として出場しました。ロンドンオリンピックに出場した2年生の寺本明日香さんを応援するために作った、オリジナル応援歌「明日へ」をこの大会用にアレンジした曲を披露しました。それぞれに個性のある9組のバンドが出演する中、高校生らしい爽やかさにあふれた演奏は聴衆に好感を与え、司会のサバナ高橋さんもバンド名「市邨軽音ガールズ and a boy」を何度も繰り返すほど気に入ってくれたようでした。

この模様は 1月6日(日)から4週にわたり、毎週日曜日の18:00～18:25にNHK Eテレ(教育テレビ)で放映されました。



「スクールライブショー」で演奏する軽音楽部

～高蔵校～ 修学旅行(九州・長崎)を通じた平和学習が、現地新聞で大きく報道

高蔵高校2年生は、11月13日(火)～16日(金)まで、大宰府天満宮・九州国立博物館～杖立温泉～柳川川下り～長崎原爆資料館～稲佐山～長崎自主研修～佐世保・ハウステンボスという行程で修学旅行に出かけてきました。この修学旅行の大切な目的の一つに、平和学習があります。毎年、この旅行では原爆資料館を訪れます。また被爆者の方に直接お話をさせていただき、平和公園で「平和宣言」を読み上げ、原爆で亡くなられた方々に花を捧げる「平和式典」を行います。今年度はこの平和学習に重点を置き、1学期には熱田空襲を体験された齋藤孝さんの講話を学年全体でお聴きました。また、夏休み中には一人約100羽の折鶴を平和について語りながら家族で折り、約3万羽の折鶴を使って「巨大壁画 平和祈念像」(縦3.6m×横2.4m)を作成し、文化祭で展示しました。今回、この壁画を長崎の稲佐山観光ホテルに郵送し組み立て、その壁画を背景に被爆者の永野悦子さんによる「平和講演」が行われました。ホテルでこの壁画を見た生徒たちは驚くとともに、永野さんの講演に時折、目に涙を浮かべながら真剣な表情で聴き入っていました。その後、永野さんから「折鶴の大きな壁画には驚くと共に感動しました」というお礼のお手紙をいただきました。

翌日、平和公園で行われた「平和式典」では、全員の黙とうに始まり、学年連絡会のメンバーを中心に「平和宣言」が読み上げられ、被爆して亡くなられた方々に花が捧げられました。この平和宣言も学年全員から「平和を考えるアンケート」を取り、その内容をもとに学年連絡会が作成したものでした。そこには、日常生活を「普通」に過ごせる「ありがたさ」を認識し、人との「つながり」を大切に作る姿勢こそが「平和」を築く第一歩である、と述べられていました。これらの一連の平和学習の取り組みは、地

元「長崎新聞」に大きく掲載されました。式典後、各班に分かれて「長崎自主研修」が行われましたが、ここでも事前学習が役に立ちました。修学旅行と結び付けられた総合学習を通して、「環境」「国際」と共に「平和」という観点から、生徒たちは長崎を調査してきたからです。生徒たちはこの自主研修を総合学習のフィールドワークと位置づけ、今後もこれらの場所や施設を詳しく調べていくことになります。

修学旅行の4日間、生徒たちはクラスメートや先生たちと楽しく交流し、九州の大自然や名所の美しい景観を満喫しただけでなく、平和学習を通して多くのことを学んでくれたことと思います。

名古屋経済大学高蔵高等学校 普通科2年 学年主任 森下 哲夫 教諭



「巨大壁画 平和祈念像」の前で講演者の永野さんと記念撮影